

令和5年度 学校法人田熊学園 田熊幼保連携型認定こども園の取り組み

1 田熊認定こども園教育・保育目標

『「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」とイエス・キリストが言われたように、子ども一人ひとりの人格を重んじ、子ども自らが主体性を持ち喜びをもって、生きていけるように生きる力を育む保育』

(1) 思いやりの心

○園生活や遊びの中での友達との関わりから、相手の立場に立って行動できるよう、優しい心、思いやりの心を大切にする。

(2) 感謝する心

○人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感そして人を大切にする心を育てると共に自主・協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培う。

(3) 心身共にたくましく育つ

○友達や周りの人たちとよく遊び、自己を肯定できる心を養う。

2 各年齢の目標

年齢	目標(数字は1の項目と関連)
0歳児	<p>○一人ひとりの子どもの生活リズムや生理欲求を満たすことで、保育教諭との信頼関係を築き安定した生活が送れるようにする。</p> <p>○身のまわりに対する興味や好奇心を育て個人差に留意しながら離乳の完成や歩行、発語への意欲を育む。</p> <p>○快適な環境に配慮し、安心して過ごせるようにする。(2)(3)</p>
1歳児	<p>○保育教諭との安定した関係の中で探索活動などが十分にできるようにし、新たなものへの興味を広げていく。</p> <p>○好奇心や自分からやりたい気持ちを育む。</p> <p>○安全で活動しやすい環境の中で、自分なりに活動範囲を広げる。(2)(3)</p>
2歳児	<p>○保育教諭に見守られ、簡単な身の回りの事を自分でできるようになる。</p> <p>○生活の中で身の回りの物の名前や簡単な数、形、色などがわかり、言葉を使って伝えたり言葉のやり取りを楽しんだりする。</p> <p>○遊びや活動を通して、興味や関心および友達との関わりを広げていく。(1)(2)(3)</p>
3歳児	<p>○生活の流れに見通しを持ち、身の回りのことも自分でしようとする気持ちを育てる。</p> <p>○様々なものに興味・関心を持ち、友達と触れ合いながら楽しんで遊ぶ。</p> <p>○自身の思ったことや感じたことを様々な方法で表現する。</p> <p>○保育教諭との信頼関係をベースにして、集団活動の心地よさを感じる。(1)(2)(3)</p>
4歳児	<p>○保健的で安全的な環境の中で、一人ひとりの欲求を十分に満たし、集団生活が快適にできるようにする。</p> <p>○全身を動かして、運動遊びを楽しんだり丈夫な体をつくる。</p> <p>○自分の思いを表現したり、相手の思いに気づいたりしながら友達と一緒に遊ぶ。</p> <p>○生活や遊びを通して、達成感を味わい自信をもって行動する。(1)(2)(3)</p>
5歳児	<p>○自分でできることの範囲を広げながら、生活習慣や態度を身に付ける。</p> <p>○保育教諭との信頼関係の中で情緒が安定し、自然や身近な事象に興味、関心を持ち知的的好奇心や探求心を高められる生活ができるようにする。</p> <p>○友達との関わりを十分に楽しみ、意欲的に遊びや生活に取り組むと共に主体的に行動し、充実感を味わう。</p> <p>○自分の思いや感じたことを様々な方法で豊かに表現する。(1)(2)(3)</p>

3 評価項目の達成及び取り組み状況

A:十分達成されている B:達成されている C:取り組まれているが成果は十分ではない D:取り組みが不十分である

	評価項目	内容	結果	説明
1、 子どもの 発達援助	① 発達援助の 基本	○一人ひとりの園児の発達状況に配慮した指導計画を作成し、定期的に評価を行い、その結果に基づき指導計画の見直しを行う。	B	・毎日、保育を振り返り、集会等で話し合い一人ひとりを理解するように心掛けた。 ・指導計画に1人ひとりのことが事細かく記入できるように改善していきたい。
	② 健康管理・ 食育	○一人ひとりの実態に応じた健康管理を行う。 ○食育年間計画を基に、意欲をもって食に関わる経験を積み、食事を楽しむ子どもに育てる。	A	・家庭で記入していただく健康観察カード(乳児は連絡帳)や登園時の検温、視診、保育中の観察など一人ひとり健康状態を把握し対応した。 ・悪体調の園児に対しては、看護師と連携を行い、助言に従った。
	③ 教育・保育 の環境と内 容	○園児が安心して安全に過ごす環境を整える。 ○園児が自主的に活動できる環境の工夫をする。 ○園児一人ひとりを受容し理解を深めた働きやきかけや援助をする。 ○地域の教育力を活かした教育・保育内容を構築する。	A C	毎月の安全点検等で安全を懸念される箇所が見つかった時は直ぐに対応していった。 ・子どもの遊びを途切れさせず、遊びこめる様に計画の変更を柔軟に行なった。 ・園庭環境を整備している途中段階である。子どもの自主性を受容できるよう考え、早急に環境を整えていきたい。 ・今後地域の教育力を活かしていける保育ができるように努めていきたい。
2、 小学校との 連携	① 園・小連携、 接続	○アプローチカリキュラムをもとに取り組みを進める。 ○小学校との連携を円滑に行う。	A B	・年長児に対しては十分に取り組んでいるが、他の学年においては改善していく必要を感じている。 ・小学校の先生が実際の園での子どもの様子を見学に来られた事その際に、保育のねらいや状況を共有できた事はよかった。 ・小学校との交流活動を増やし、子ども同士がもっと繋がることを課題としていきたい。
	① 保護者との 信頼関係	○保護者との連携や情報交換を行いながら教育・保育に関する理解を得る。	A	・送迎の時など、積極的に声をかけ一人ひとりの課題や様子を共有していった。 ・保護者とのやりとりに連絡帳・ホワイトボード・掲示板等日々の様子等を伝えている。
3、 子育て 支援	② 地域の子育 て支援	○地域の子育て家庭への支援を行う。	A	・園庭開放で地域の子どもたちが気軽に参加できるようにしていきたい。 ・公民館の行事に参加することはあっても、地域の方と触れ合いながらの活動は十分ではない。今後、散歩を通して地域の方々と挨拶を交わしたりして見守っていただけるような活動に取り組んでいきたい。

4, 子どもの安全	① 危機管理	○事故や災害、不審者に適切に対応できる体制づくりを進める。 ○食中毒や感染症に対する予防や対策についてマニュアルに基づき適切に実地する。	A	・毎月の避難訓練や交通安全指導、職員による安全点検など年間を通して計画的に取り組んできた。 ・看護師による感染症予防に対する研修報告を共有し、職員一人ひとりの意識を高めていった。 ・園内の感染者数や流行している病気を記したボードを門に掲示し、保護者に注意を促している。
5, 運営管理	① 組織運営	○保育・教育目標に基づき、職員が意識統一のもと協議する。	A	・主幹保育教諭が中心となり、常に組織が一体化するよう運営を進めることができた。 ・職員間での信頼関係の構築ができており、情報共有や保育の方向性の確認ができています。
	② 服務管理	○服務に係る研修を充実させる	B	・保育教諭として、定期的に保育・教育の振り返りを実地し、問題点があれば会議で協議することができた。 ・年間で計画された研修を受け、その報告をすることでより高度な保育・教育の充実を図っている。

4 第三者委員からの目標や計画の総合的な評価結果と今後の課題

結果	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育では、保育教諭が子どもたち一人ひとりの思いに寄り添い、思い思いの活動を楽しむことができています。 ・保護者参加の行事も少しずつ実地することができています。 ・園庭環境では、今年度大型固定遊具を撤去し整備されている途中段階ではあるが、子どもたちが遊びこめるように工夫されているのでBに近いCの評価である。 ・保育教諭が子ども中心の保育ができるよう、意見が言いやすい環境を作ることが大切である。 ・地域の方々は、コロナ感染症5類の移行したことも踏まえ、4年間中止されていた交流の再開を望まれている。

5 第三者評価に対する施設のコメント

<p>まず初めに、この度はお忙しい中私たち保育教諭の思いを受け止めて、評価や第三者としての気づき、ご指導をいただきまして、感謝申し上げます。</p> <p>今後、職員で話し合い、改善できる点をみんなで改善していこうと取り組み始めています。更なる質の向上とこども園に求められる、地域に開かれたこども園となれるよう努めていきたいです。</p>
